

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2277 号

Ten-year trend of the cumulative *Helicobacter pylori* eradication rate for the “Japanese eradication strategy”

(日本の治療戦略として、ヘリコバクター・ピロリ累積除菌率の 10 年間の傾向)

佐々木 仁 (ささき ひとし)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、我が国の 1 次除菌であるプロトンポンプ阻害薬＋アモキシシリン＋クラリスロマイシン療法、2 次除菌であるプロトンポンプ阻害薬＋アモキシシリン＋メトロニダゾール療法による一貫した治療、つまり、『日本のヘリコバクター・ピロリ治療戦略』について検討を行っている。当院における最近 10 年間の 1 次・2 次・積算除菌率、つまり、2000 年 1 月から 2009 年 12 月までの期間にヘリコバクター・ピロリ感染症と診断され 1 次除菌治療を行った 1973 例を対象とし、各例毎の最終除菌判定の結果から積算除菌率を計算している。10 年間の総計除菌率は Intension to treat(ITT)で 1 次除菌で 65.3%、2 次除菌で 84.0%、積算除菌で 76.0%であり、各年毎の 1 次除菌率は年々低下していたが、2 次除菌率経年変化を認めなかった。各年毎の積算除菌率の比較では有意差は認めなかった。1 次除菌率の低下はあるものの、積算除菌率は経年低下を認めず保たれていた。治療開始後で経過中に未受診となった例を除外したものを Per protocol(PP)とすると、10 年間の総計除菌率は PP で 1 次除菌：68.9%、2 次除菌：89.4%、積算除菌：98.4%であった。この論文により我が国の除菌戦略は有用であることが検証された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。